巢の附近で行はれる雄のディスプレイに注意すれば比較的容易に其の位置を知る事が出来る。此のディスプレイはチュリ、リ、リ、リ、リ、リ、リ……と囀りながら俄に藪中より垂直に間餘の高さに空中に浮び上り急に垂直に同じ位置の藪中に飛び込むもので巢の在る附近に多く行はれて居る様である。雌鳥は鳴聲を少しも發しない。猶ほ抱卵中の雌親の中には腹面に規則的な横縞斑の見られるものがある。之れは溝の様な處でも求食の際外部より附着したものであらうが恰も生來のものゝ様で剥皮後水洗をしなければ脱ちない。巢立ちした此の種の雛も藪中の地面をチッ、チッ、チッと鳴きながら單獨で遊ぶ。』

シラコバト屬に於ける 1 新雜種

(第 十 圖 版 附)

理學博士 黒 田 長 禮

埼玉縣下に野生するシラコバト (*Streptopelia decaocto decaocto* (Frivalsky)) は現時御獵場内に主産し他の地方には極めて少く¹⁾、朝鮮以外の内地に此種を増殖せしめたい希望のもとに、最も優良な 1 番を入手して試みに樹木を植へた比較的大禽檻内に放飼して其蕃殖を計つて見た。處が不幸にして♀1 羽は冬季オホコノハヅクの夜襲に會つて斃れてしまつた。夫れを償ふ爲めに丁度持合せて居た同屬の別種ベニジュズカケバト²⁾ (*Streptopelia bitorquata bitorquata* (Temminck)) の♀1 羽〔これは 1929 年にジャバ島バタビヤ市の市場から入手し持歸つたもの〕を放ち入れた。1933 年の春に至つてシラコバトのもと此ベニジュズカケバトの♀とは 1 番となり、檻内のニハトコの繁に置いた盃巢を利用して 2 卵を産み、♀交互に抱卵して完全に 2 羽の雛を孵化した。此 2 羽の雛は少しの心配もなく兩親から育てられて成鳥となつた。夫れが即ち本號口繪第 10 圖版の 2 にある様な羽色を呈してゐる。兩種の分布から見ても野生にあつては到底相會することの出

1) 拙稿「埼玉縣下に於ける鳥類の現状」埼玉縣聯合獵友會發行「獵友會報」、昭和 2 年 12 月 3—9 頁及び「鳥」第 7 卷第 32 號、187—190 頁(昭和 6 年 12 月)參照。

2) 此和名は「かひどり」第 2 卷、第 6 號、17 頁(昭和 6 年 9 月)にて公表されてゐる。

来ない程分布上の隔が存してゐる。夫故此雑種は飼鳥として始めて生ぜしめ得るもので本例は恐らく從來に知られない 1 新雑種の記録であらうと思ひ次に記載をして報告する次第である。

シラコバト ♂ × ベニジュズカケバト ♀ 東京赤坂福吉町産

記載：大體に於てシラコバトに酷似するが、次の諸點はベニジュズカケバトに似る。額及び頭頂淡灰色なること、後頸及び頸側には極めて淡い葡萄酒色を帶ぶること及び後頸の黒半輪の上下の境に明かなる白半輪を有すること等である。頭側は親の何づれよりも淡灰色なること、體の背面は寧ろ淡色なること等は此雑種の特徴と見るべき羽色である。

要するに此雑種はシラコバトの羽色の方が優勢でベニジュズカケバトの方が劣勢となつて現はれてゐると思ふ。此雑種は ♂ ♀ 生じたが殆んど同色で今尚ほ健在に飼養してゐて營巢(1934 年度に)もしたが第 2 回雑種は未だ生じない。多分 sterile であらうと思ふが今後も此實驗を續行する考へである。

第 10 圖版の雑種は 1934 年 12 月 8 日小林重三氏により活鳥から寫生したものである。

On the New Hybrids of the Genus *Streptopelia*.

By

Nagamichi Kuroda, D. Sc.

In the year of 1929, I brought back a live female of *Streptopelia bitorquata* from the Batavian Market in Java, and it has mated in my aviary with a wild male of *Streptopelia d. decaocto* from Saitama-Prefecture, Hondo, Japan. In the spring of 1933, this pair of the two different species have produced a pair of hybrids between them. These hybrids seem to me quite new to science, so that I describe them as follows.

S. d. decaocto ♂ × *S. b. bitorquata* ♀.

Diagnosis. —Very similar in colour to *S. d. decaocto*; but it resembles *bitorquata* in the following points: the forehead and the crown of head are pale grey, the hind-neck and sides of neck washed with a very pale vinous, and there is a black semi-ring on the hind-neck bordered by a very distinct white semi-ring on the upper and lower margins. The

grey of the sides of the head is much paler than in both parents and so is the general colour of the upper side of the body. These parts are the characteristics of the hybrids. They have the dominant characters of *S. d. decueto* rather than those of *S. b. bitorquata*. They seem to be sterile as they have not yet produced F_2 .

Locality. — Hatched in my aviary at Akasaka, Tokyo, in the spring of 1933.

クマゲラ *Dryocopus martius martius* (Linnaeus) に關する實驗觀察

法學士 川口孫治郎

内地本州に發見の経路

昭和八年八月中旬、著者が秋田縣鹿角郡八幡平を中心として鹿角仙北兩郡の國有林中を觀察中の一日、最高臺一六一三地點附近の案内の勞をとられし阿部季三氏の談話中に、

昭和七年四月十五六日の頃、スキーを飛ばしに來た際、蕨森一四四地點の西方、林中で、

キシバト程の大きさで、背はカラスの如く眞黒で、聲は鋭く、樹幹につく所作はキツ、キに似てゐる鳥

を見た。何鳥？と尋ねられた。乃で著者から阿部君に、

其鳥の腹部はどんな色に見えたか、

と反問してみたが、阿部君は眞摯に、そこまで注意が及ばなかつたと答へられた。そこで更に阿部君に、

今後見付けた際は、腹部が眞黒いか、眞白いか、

序に見られたならば、頂部の色も見極めおかれたきこと、等を依頼し、尙ほ同村の謹直な獵師山口岩次郎君にも此注意を依頼して於いた。

超えて十一月三十日山口君は、霧瀧附近の林中で、其鳥に遭遇して、全身眞黒であること、唯頂部から後頭部へかけて赤いこと等を確かめて、各種の材料を具して、阿部君を通して送つて來た。

1

2

3

シラコバト屬に於ける一新雜種

1. シラコバト 雄 (*Streptopelia d. decaocto*) (埼玉縣産)
2. 1と3との雜種 (*S. d. decaocto* × *bitorquata*) (東京産)
3. ベニジユズカケバト 雌 (*S. b. bitorquata*) (爪哇産)